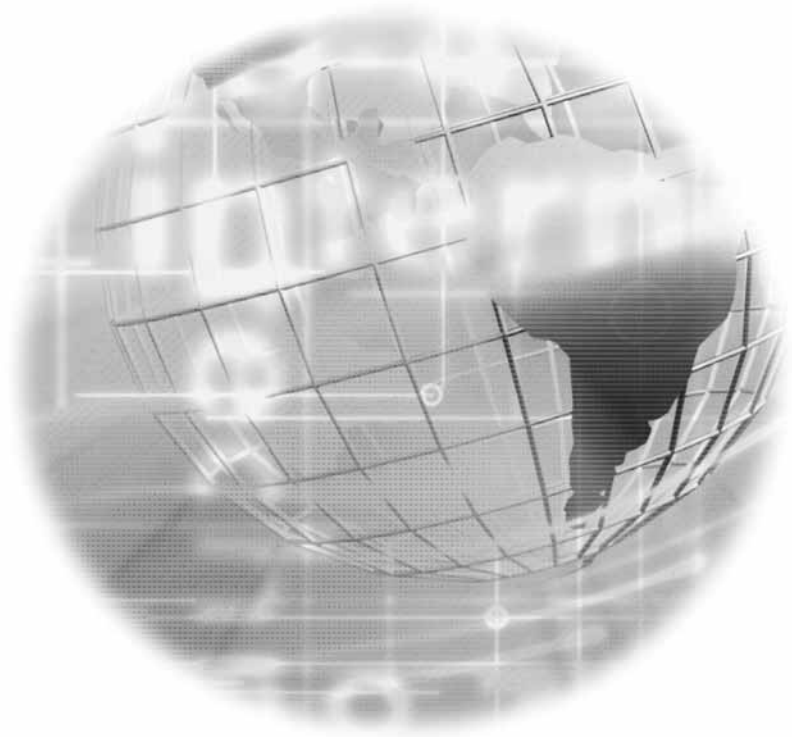


第2章

需要側からの情報収集
第二部 企業利用者のサービス需要



日経コミュニケーション

「ブロードバンド／ＩＰ電話時代の企業ネットワーク実態調査」の概要

- ・ 調査内容：社内ネットワークに利用する通信サービスとＩＰ電話の利用について現状と今後の方向性など全６０問
- ・ 調査対象：日本国内の上場企業及び有力な非上場企業２６７２社
- ・ 調査方法：アンケート票を郵送。郵送とＷｅｂで回答受け付け
- ・ 実施期間：２００３年６月１７日～７月１０日
- ・ 回答企業数（回収率）：７７９社（２９．２％）

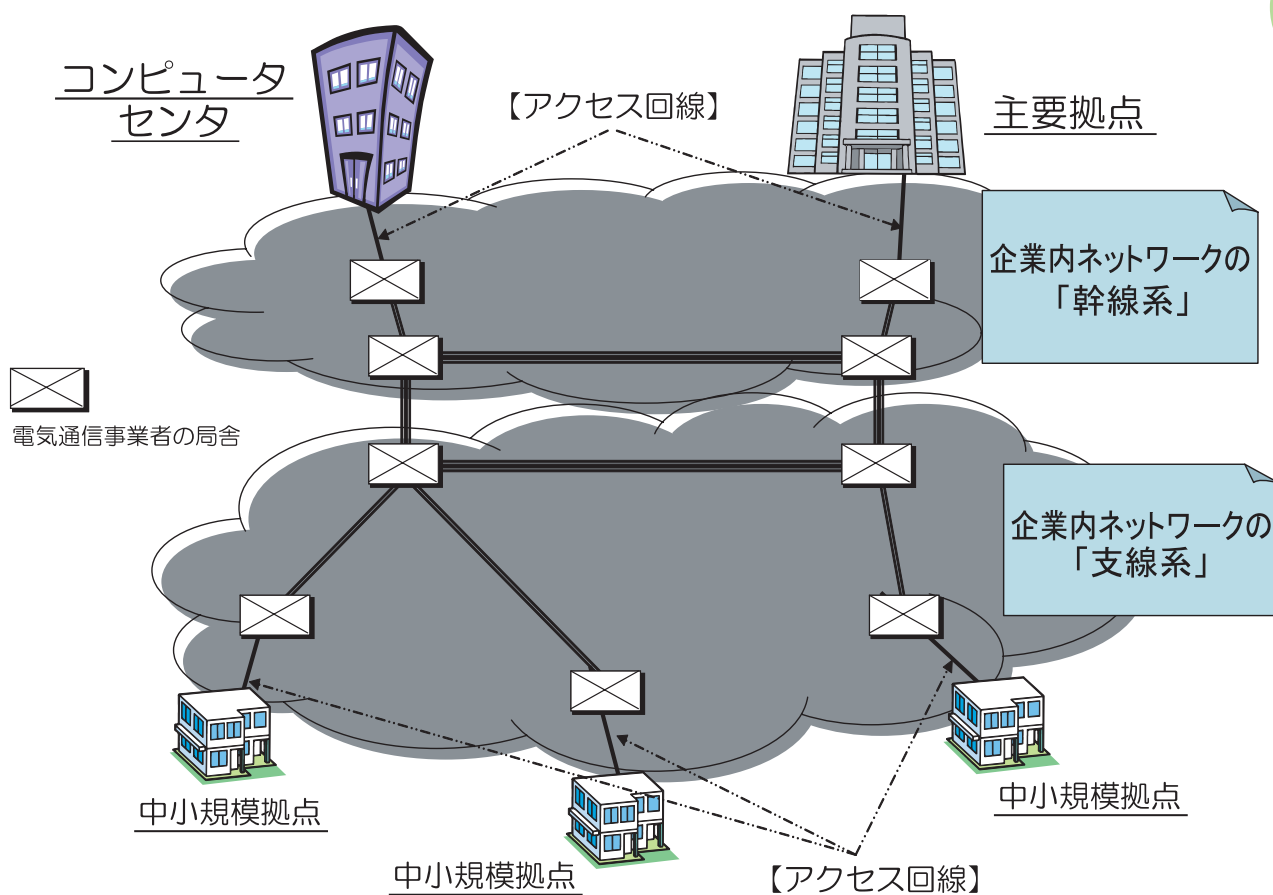
※本章第二部は全て、上記調査の結果に基づき作成。

第２章

（参考1）用語について

- IP-VPN
Internet Protocol-Virtual Private Networkの略。電気通信事業者の閉域IP網を経由して構築することによってセキュリティを高めた仮想的な閉域網サービス。
- 広域イーサネット
IEEE（米国電気電子技術者協会）802.3委員会により標準化されたLAN規格であるイーサネットで使用されているスイッチング・ハブを組み合わせて構築した通信サービス。
- インターネットVPN
公衆網であるインターネットを企業通信ネットワークの仮想閉域網（VPN）として使うこと、またはそれを実現する技術。中継区間にIP専用のサービス網ではなくインターネットを使うため、通信事業者が提供するIP-VPNとは異なる。
- 専用サービス
特定区間をダイレクトで結び、回線を専有して利用する通信サービス。
- フレームリレー
転送するデータを可変長の「フレーム」という単位に分割して送受信する通信サービス。
- セルリレー
ATM（非同期転送モード）により、伝送するデータを固定長の「セル」という単位に分割して送受信する通信サービス。
- NTT東西のフレッツ・オフィス等（フレッツ・オフィス、同ワイド、フレッツ・グループ（アクセス））
 - ・「フレッツ・オフィス」は、企業ネットワーク等をNTT東西の地域IP網（フレッツ網）に接続し、同一都道府県エリア内の地域IP網に接続されたフレッツ・アクセス サービス（Bフレッツ、フレッツ・ADSL、フレッツ・ISDNなど）からの通信を可能とするサービス。
 - ・「フレッツ・オフィス ワイド」は、都道府県をまたがる通信を可能としたサービス。
 - ・「フレッツ・グループ」は、NTT西日本が提供し、Bフレッツ、フレッツ・ADSL、フレッツ・ISDNの利用者がプライベートグループを構築することにより、グループ内でのIP通信が可能となるCUG（グループ内通信）サービス。NTT東日本が、同様のサービスを「フレッツ・グループアクセス」という名称で提供。
- NTT東西のメガデータネット
ATM技術をベースとし、同一都道府県内においてイントラネットやエクストラネットを構築したいという場合に、事業所ごとの使い方に合わせて、PVC（相手固定通信）メニュー、CUG（グループ内通信）メニューの2種類の通信メニューと、それぞれ最大10Mbpsまでの速度品目などを選択することで、通信形態に応じたネットワークの構築が可能なサービス。

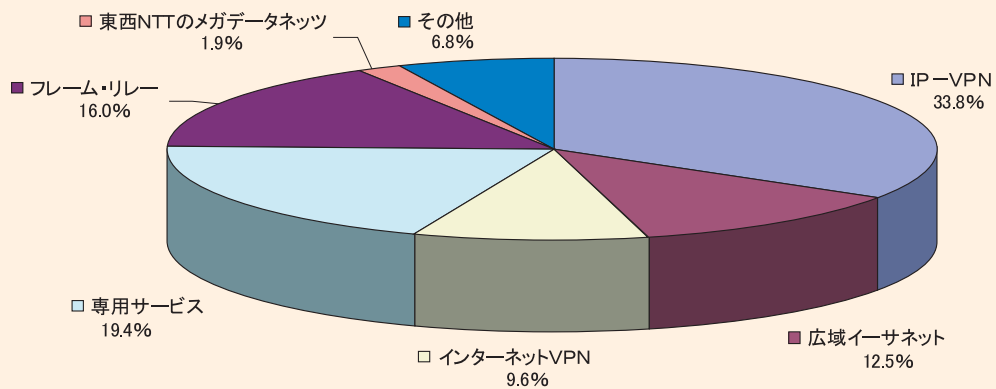
(参考2) 企業内ネットワーク（幹線系、支線系）の概念図（イメージ）



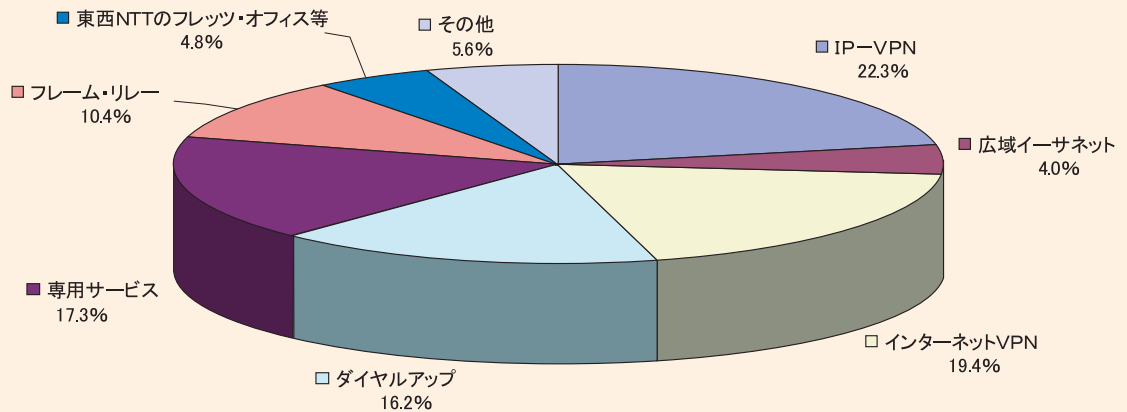
1 現在の主力利用サービス

調査対象企業である国内上場企業及び有力な非上場企業が社内の幹線系ネットワーク（主要拠点同士やコンピュータセンターを接続）に現在主に利用している通信サービスは、多い順に、IP-VPN、専用サービス（イーサネット専用線、高速デジタル専用線、超高速デジタル専用線、エコノミー専用線、ATM専用線の合計）、フレームリレー、広域イーサネット、インターネットVPN。支線系ネットワーク（中小規模の拠点を接続）に現在主に利用している通信サービスは、多い順にIP-VPN、インターネットVPN、専用サービス、ダイヤルアップ、フレームリレー。

○幹線系の主力サービス(現在)



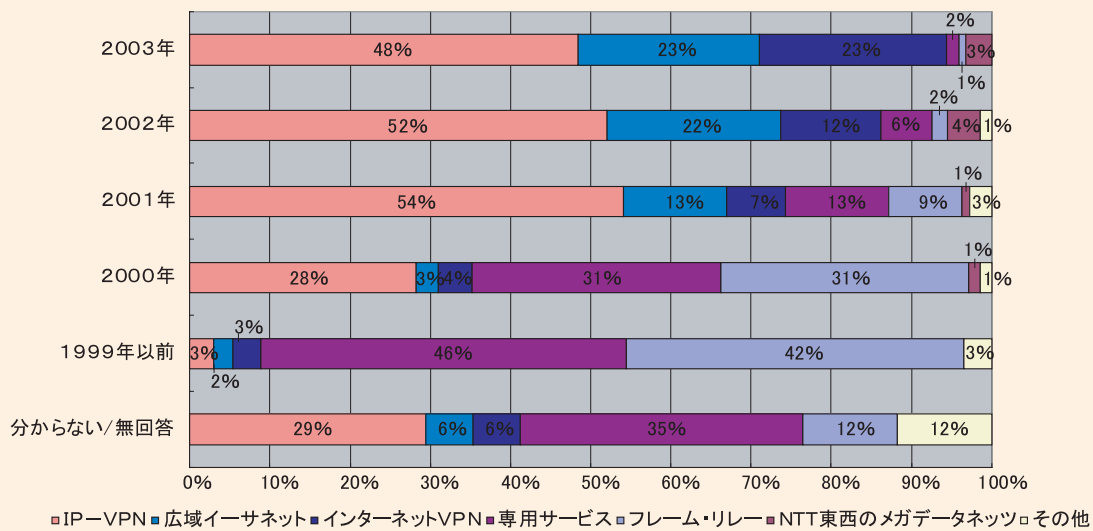
○支線系の主力サービス(現在)



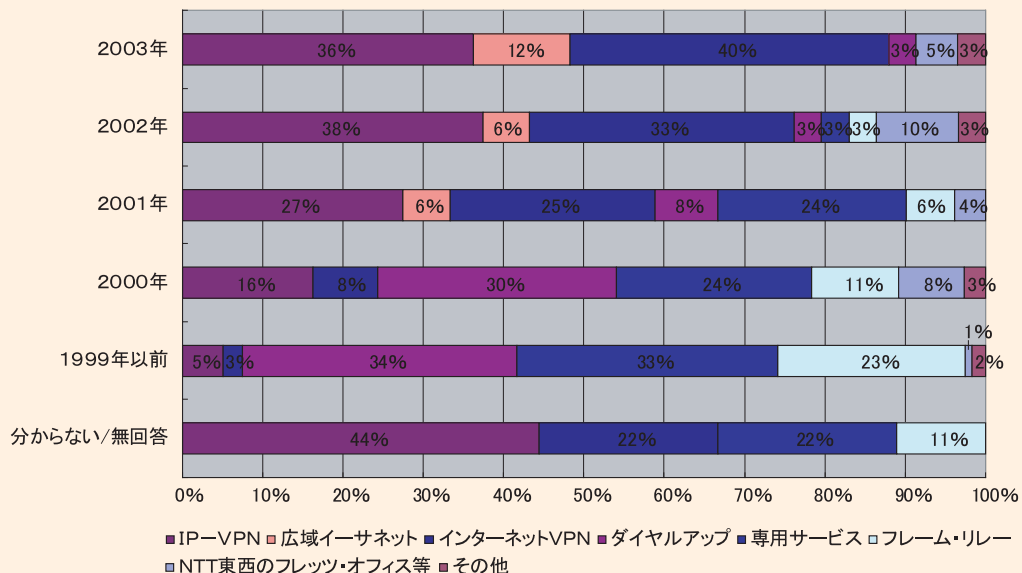
2 現在の主力利用サービスと導入時期①(導入時期別)

幹線系の主力サービスの導入時期を見ると、1999年以前から利用されているサービスはほとんどが専用サービスとフレームリレー。2001年以降はIP-VPNと広域イーサネットが急速に台頭して過半を占め、最近ではインターネットVPNが伸長。支線系では、1999年以前から利用されているサービスはほとんどがダイヤルアップ、専用サービス、フレームリレー。2002年以降はIP-VPNとインターネットVPNで過半を占めている。

○ 幹線系の主力サービス(導入時期別)



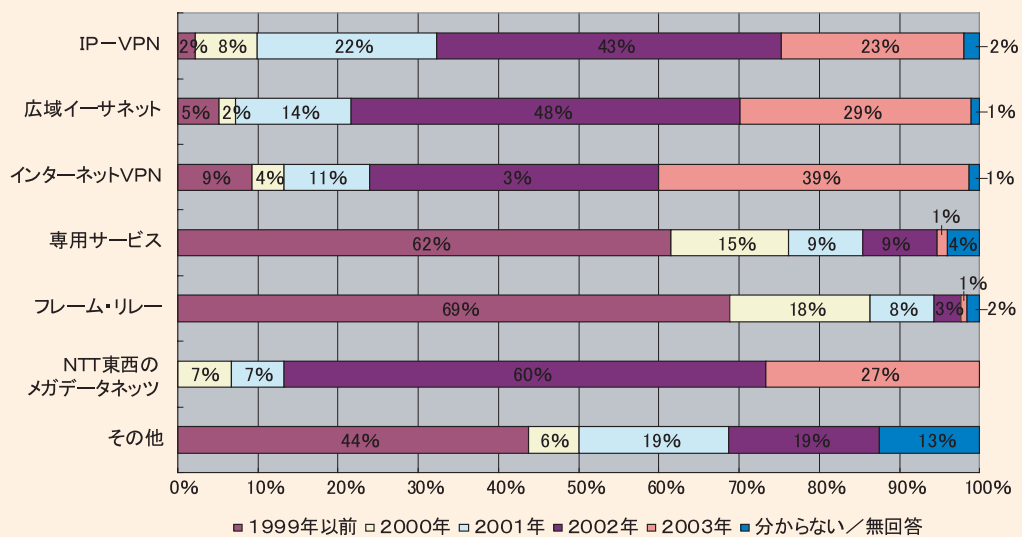
○ 支線系の主力サービス(導入時期別)



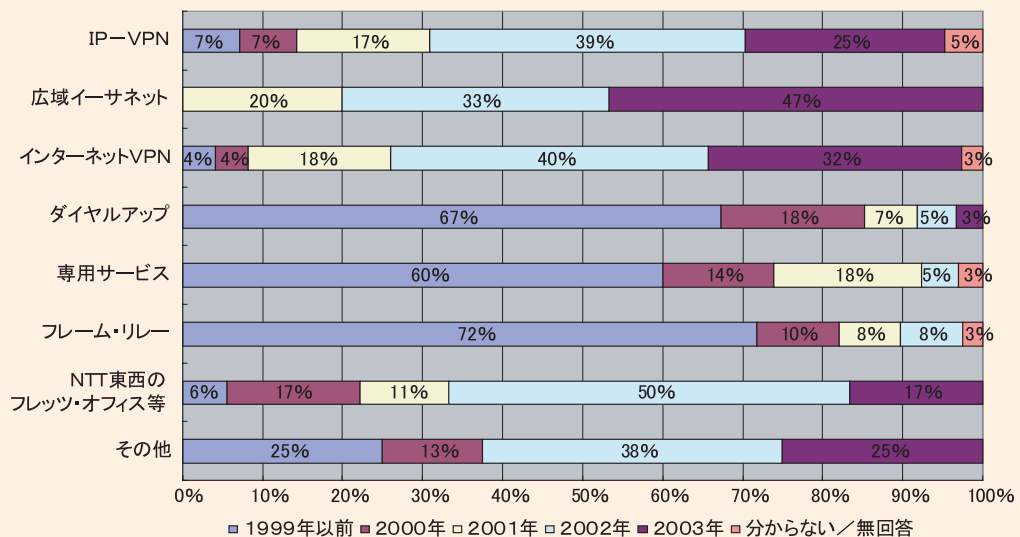
3 現在の主力利用サービスと導入時期②(サービス別)

専用サービスやフレームリレーの多くが1999年以前に導入されている。IP-VPNや広域イーサネットの導入が活発になるのは幹線系、支線系ともに2002年以降。

○ 幹線系の導入時期(サービス別)



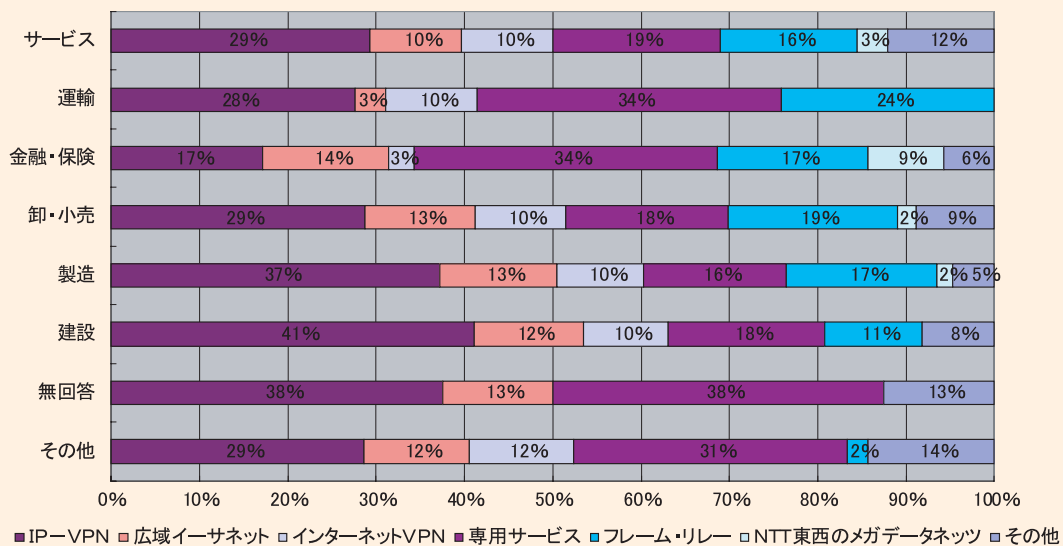
○ 支線系の導入時期(サービス別)



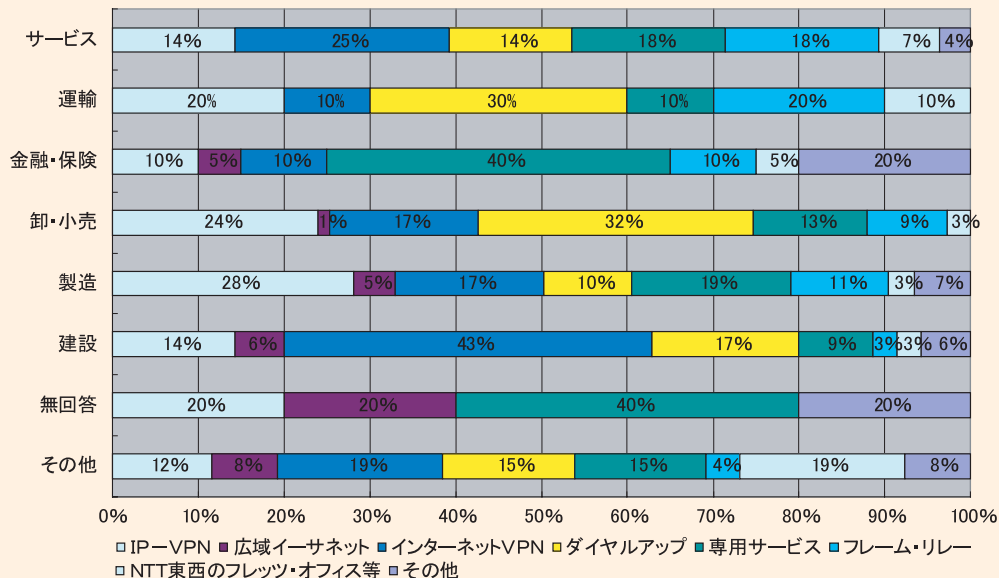
4 現在の主力利用サービス③(業種別)

幹線系に現在利用されている主力利用サービスは、業種によって差があり、建設や製造などではIP-VPNが1位なのに対し、金融・保険では専用サービスが1位。耐障害性等の高品質を求める業種でのベストエフォート型サービスへのニーズは今なお低い。支線系に現在利用されている主力利用サービスでも、金融・保険のように耐障害性等の高品質を求める業種では専用サービスを求める傾向はやはり顕著。

○ 幹線系の主力サービス(業種別)



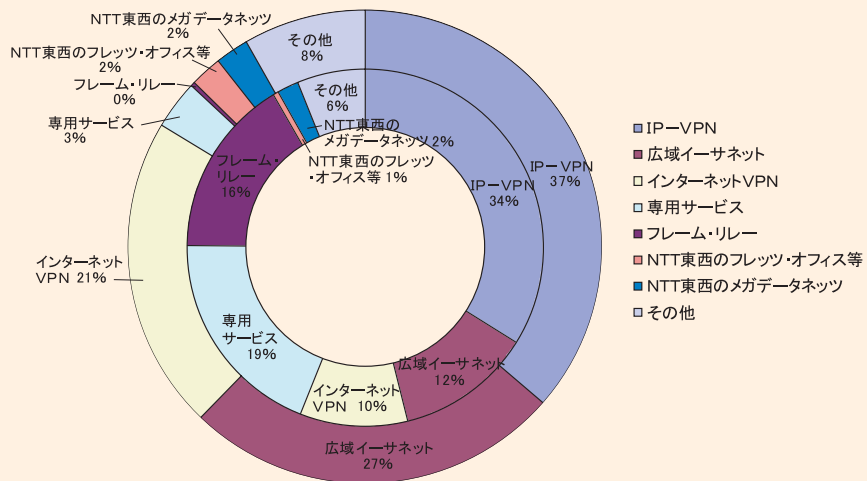
○ 支線系の主力サービス(業種別)



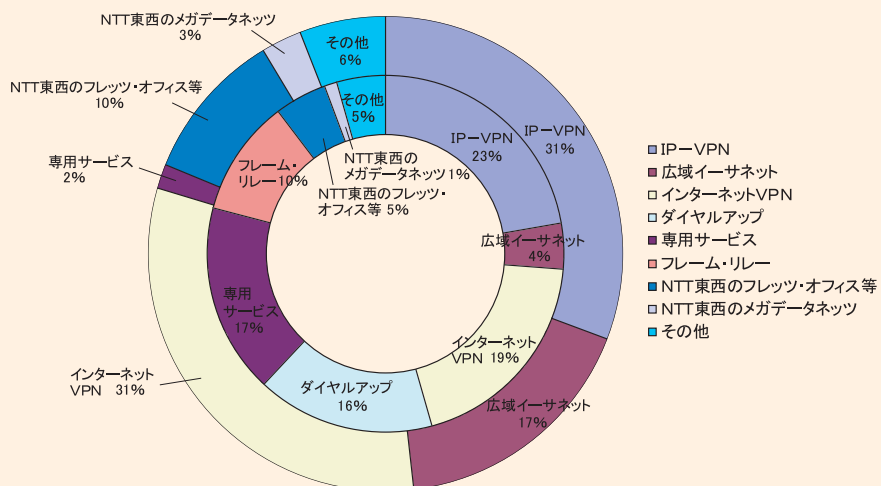
5 今後の主力利用サービス

今後の主力利用サービスとして見込まれているのは、幹線系では多い順に、IP-VPN、広域イーサネット、インターネットVPN。広域イーサネットとインターネットVPNの拡大が顕著。支線系では、多い順にIP-VPN、インターネットVPN、広域イーサネット、NTT東西のフレッツ・オフィス等。IP-VPN、広域イーサネット、インターネットVPNの伸びに反比例するように、専用サービスは大きく後退。

○ 幹線系で今後採用する見込みの主力サービス(外円)
(幹線系で現在の主力サービス:内円)



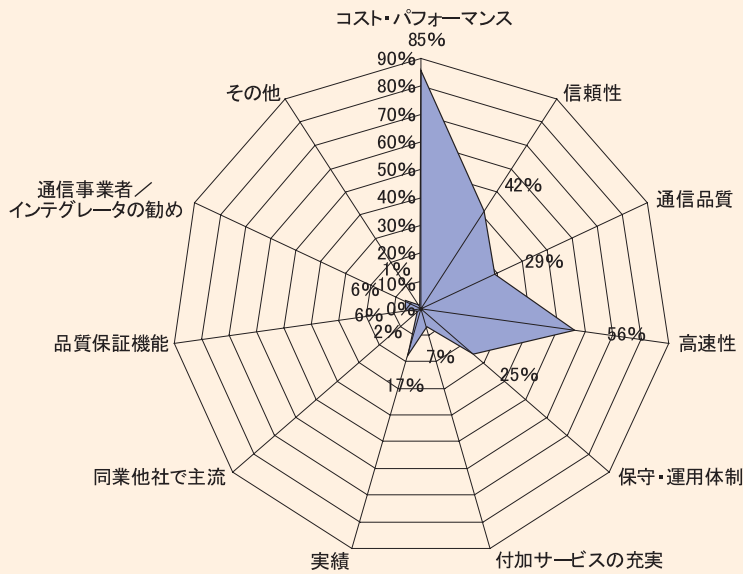
○ 支線系で今後採用する見込みのサービス(外円)
(支線系で現在の主力サービス:内円)



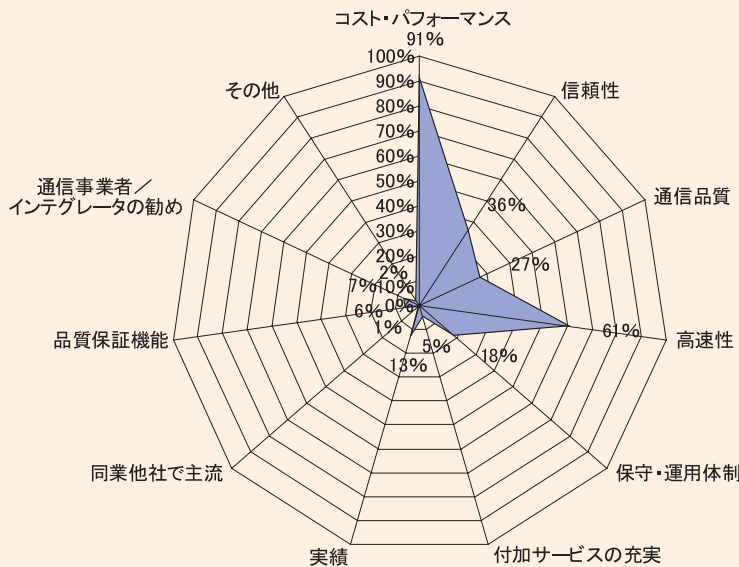
6 今後の主力利用サービスの選択理由①(全体)

幹線系ネットワークの採用で今後重視する事項は、多い順に、コストパフォーマンス、高速性、信頼性、通信品質、保守・運用体制。幹線系と支線系の間には、その傾向において特異な差はない。

○ 幹線系主力利用サービスを今後採用する際の選択理由（複数回答可）



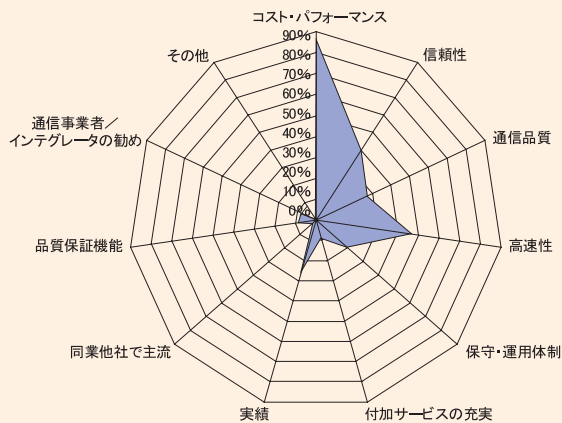
○ 支線系主力利用サービスを今後採用する際の選択理由（複数回答可）



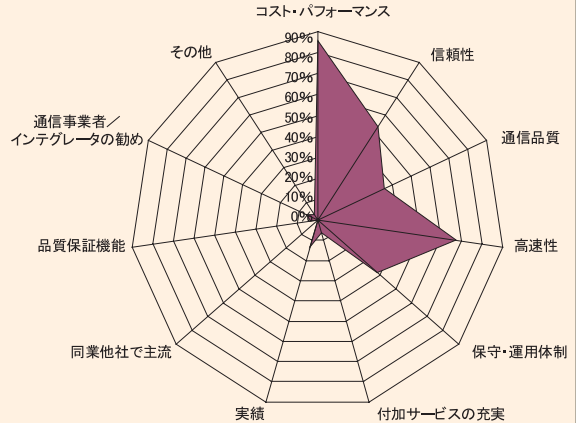
7 今後の主力利用サービスの選択理由②(幹線系)

選択理由をサービス別に見ると、IP-VPNや広域イーサネット、インターネットVPNでの重視事項は共通して、コストパフォーマンスと高速性。インターネットVPNは、コストパフォーマンスと高速性が突出して、通信品質や信頼性は重視されていない。専用サービスは、信頼性や通信品質に対する要求が高い点で、IP-VPN、広域イーサネット、インターネットVPNと一線を画す。

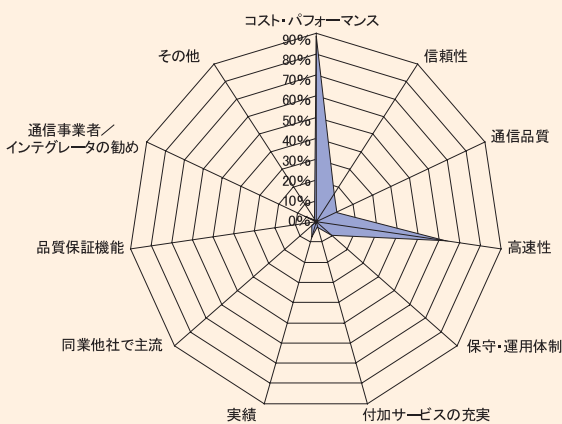
○ 幹線系主力利用サービスの選択理由(IP-VPN)



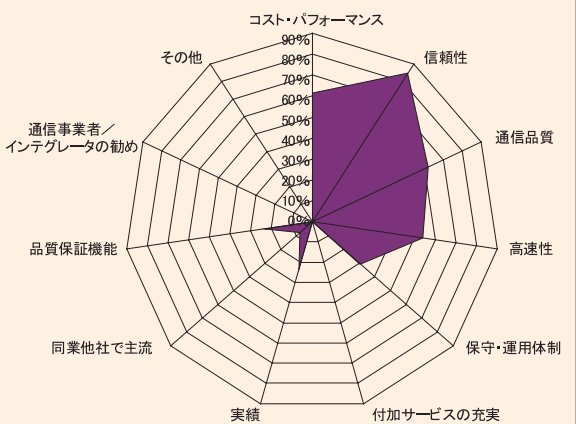
○ 幹線系主力利用サービスの選択理由(広域イーサネット)



○ 幹線系主力利用サービスの選択理由(インターネットVPN)



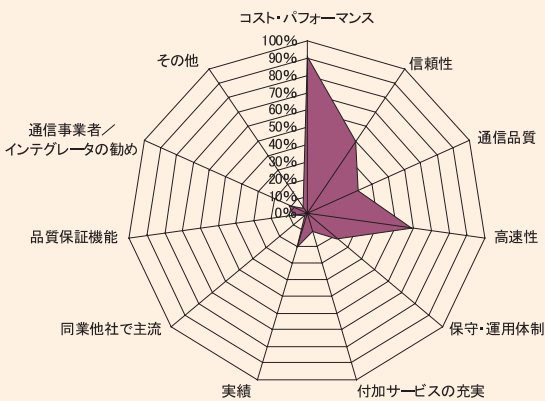
○ 幹線系主力利用サービスの選択理由(専用サービス)



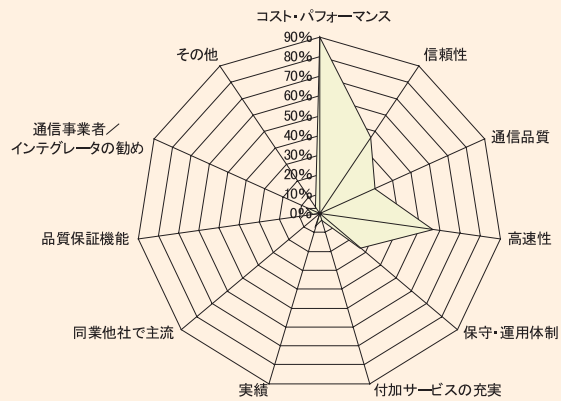
8 今後の主力利用サービスの選択理由③(支線系)

IP-VPNや広域イーサネット、インターネットVPNで重視されているのはコストパフォーマンスと高速性で、専用サービスは信頼性や通信品質に対する要求の高さで他のサービスと一線。傾向は幹線系と同じ。

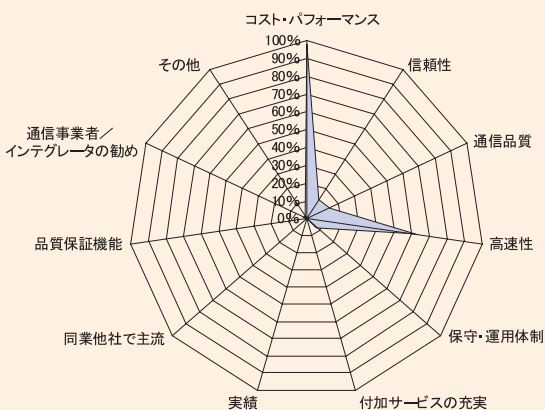
○ 支線系主力利用サービスの選択理由(IP-VPN)



○ 支線系主力利用サービスの選択理由(広域イーサネット)



○ 支線系主力利用サービスの選択理由(インターネットVPN)



○ 支線系主力利用サービスの選択理由(専用サービス)

